

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和2年10月9日(金)
午前9時58分から午前11時34分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席委員 (委員長) 関戸郁文 (副委員長) 谷平敬子
(委員) 片岡健一郎、水野忠三、宮川隆、堀 巖、榊谷規子
- 5 欠席委員 なし
- 6 説明員 都市整備課長 西村忠寿
- 7 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子
- 8 委員長挨拶
- 9 協議事項

(1) 令和2年度政策提言について

【駅東の賑わいづくり】

関戸委員長：桜通線の用地買収の現状を教えてください。

都市整備課長：桜通線は駅前広場から岩倉街道までを整備中、用地買収率は56パーセントである。工事は、用地買収が終わったところがまとまれば、令和4年から部分的に着手、令和5年度に全面着工、令和6年度の共用開始を目標にしているが、移転先を探していらっしゃる方もいるので、こちらの都合で性急に進めないようにしないといけない。駅東再生協議会があり、兼ねてから年にいくつかのテーマを設定して沿道の街づくりについて、コンサルタントにも依頼して、市からも300千円の補助金を出して協議している。沿線上で商売を続けたい、住み続けたいと考えている方が多く、再生協議会から面開発の提案もしているが、承諾しかねるという話も出ている。広い土地で出来るだけ面整備をしたいが、難しそうである。北街区の再開発のように都市計画決定で行うことは、面積や建っている建物から考えても困難。にぎわい広場ということでお祭り広場を拡張して賑わいの拠点としてはどうかという案もある。江南岩倉線は桜通線との交差点部分や一部を先行取得して、代替地として提供したりしているが、江南岩倉線は区画整理で面整備を行わないといけないので、構想は今後。

関戸委員長：再生協議会の提案の内容は。

都市整備課長：市が300千円の補助金を出しており、玉野総合コンサルタントに年間3回程お願いしている。桜通線沿道の土地を共同化したらどういうことが出来るか、役員で検討している。それを元に地主と協議したりしている。実施していくことになれば、市が本格的な整備計画等を作成していくことになるが、まだそのような段階ではないので、議会にも報告はしていない。報告

書は協議会が保管している。

宮川委員：補助金を出しているのであれば監査対象でもあるので、資料請求すれば協議会の報告書は提供していただけるのか。

都市整備課長：はい。

宮川委員：駅東の再開発は随分前から取り組んできて、議会にも都度、資料が示され、将来像を描いてきたが、最近そのようなものを見かけないが。

都市整備課長：平成24年に作成したまちづくり構想が最新で、以降大きな変更はない。

宮川議員：改選もあったので、資料を持っていない議員に配付するよう委員長に取り計らいをお願いする。

堀委員：再生協議会は任意団体で、市の附属機関ではないと認識しているが、市民参加の視点からすると、土地所有者も大事だし、もう少し幅広い市民が参加する附属機関を設けて意見集約する過程に移行する予定はないか。

都市整備課長：再生協議会は権利者で集まってもらった任意団体である。役員の中にも、用地買収の対象になって退会した人もいる。構想を改めて作成して整備を進めていくことが必要になると思うので、駅東の新しい事業者にも参加してもらって、広く意見を賜りたい。

(暫時休憩)

水野委員：一般論だが、更地と、建物が建っているのでは、税など土地所有者の負担が異なる。更地で持っている人になにか市がサポートをして、更地で持ってもらえるような方法はあるのか。

都市整備課長：現在行っているのは、市が借地として借りる方法。

水野委員：これも一般論だが、条例で建築制限することは可能か。

都市整備課長：可能ではあるが、市が計画を持って、権利者に納得してもらうことができる内容なら。

(暫時休憩、都市整備課長退席)

水野委員：地主と議会、委員会とでふれあいトークを開催してみてもどうか。どういう意向なのか、聞いてみたらいいのでは。

関戸委員長：何か提案できる材料を議会で持っているならいいが、何もなく開催しても、議会が交渉するようなことになってしまい、少し難しいと思う。

宮川委員：駅東地区の面としての価値や将来性が、道路計画の大幅な変更を経て、地主には見えてきていないのではないか。商売の基盤としてではなく、資産として、道路が出来ることで土地の値段は上がるだろうから、今、安い値段で売買交渉に乗る必要はなく、駐車場にして寝かせて置いたほうがいいのかという考えがあるのでは。市として、こういうまちにしていくという腰を据えた計画を示せなければ、地主もなかなか動かないのでは。

片岡委員：土地所有者の考えが変わるような大胆な施策を打ち出す必要がある。店舗もしくは店舗兼住宅を建てたら、店舗部分は市が借り上げるとか補助金が出るとか。

関戸委員長：店舗を出して、借りる人がいて、採算が取れて、儲けが出るか。コンサルも、所有者も、それが難しいと思っているから現状こうなっているのだろう。助成金を出したからと言って成り立つのだろうか。それだけ疲弊している。

片岡委員：犬山市は市が借り上げて、民間に貸す方式だったと思う。コンサルがそう言うから、というのも寂しい。飲食業や商売をしたい、借りたいというニーズはあると思う。

水野委員：桜通線から一本南の、角に喫茶店のある通りは賑わっているか。相乗効果が期待できるのか、お客を半分に分け合うことになってしまいそうなのか。

宮川委員：規制の掛け方にも拠る。桜通線の歩行者が増えれば、近距離なので（南側の通りの）店舗にも人が入るだろうということは想像がつく。しかし、（桜通線を）単なる通過道路にしてしまったら、南北どちらの通りも死んでしまう。便利にすることだけがまちづくりではなく、人が滞留するようにしないといけない。東西にバス停があるお陰で、岩倉駅は乗降人数が多いのだが、電車を降りてすぐにバスに乗って散ってしまうのでは駅東の商売は成り立たない。また、高齢化が進み、車に乗れないので買い物に行けない人のために、生活に密着した個人店舗をどうやって生き残らせるかが大事だと思う。道路に目が行きがちだが、面として、人の流れはどうか、どんな人が利用し、どんなニーズがあり、どんな店舗が必要か。例えば帰宅途中に家族にケーキを買っていきたくても、その時間にお店が開いていないと意味がないし、ニーズに合わせた店舗の貼り付けも考えていかないといけない。どういうまちにするのか。道ありきで考えてしまうと意味のない単なる通過道路を作ることになりかねないと思う。

堀委員：カラオケもパチンコもなく、若者が遊びに行く店も、呑みに行く店も少なく、桜通線の南の通りも数件を除いてシャッター通りに近い。まずはあの通りで成功事例を若い人に見せていくことが大事。

関戸委員長：シャッターがしまっている店舗が何件かあるので、これを若い、商売をやりたい人に貸出すことが出来るといいのでは、ということだと思うが、成功しそうだろうか。

谷平副委員長：北名古屋だったか、小さい店なのに、若い人が多く集まっていて、何だろうと思ったらダーツバーだった。踏切近くで、駐車場もない小さな店。おでん屋は夕方になると賑わっているが、一部分だけで、（通り全体は）静か

な雰囲気だ。商売をするにしても、特にコロナ禍で家賃が払えなくなる不安があるので、家賃補助を市がすることで、商売を試みようかなと思う人が出てくると思う。岩倉市の人は市外に出掛けることが多いのだと思う。

梶谷委員：以前、そういう補助金があった。空き店舗を利用して2店舗ぐらいい出店したのだが撤退してしまい、数年前に補助金制度自体が廃止された。北街区は再開発したのに、三角州にあったお店はどこも移転してしまって、賑わいがなくなり、閑散としてしまっている。交通の便が良すぎて、帰りにケーキを買うにも、名古屋で買って帰るような環境。北街区の賑わいがなくなった状態を見て、駅東再生協議会も意欲がなくなってしまったように思う。桜通線も江南岩倉線も、かつて賑わっていた計画当初の頃の道路計画をそのままやっても無理があると思う。時間貸し駐車場はいつも満車である。

堀委員：移動販売車が全国で流行っている。ヨーロッパでは街路を整備するときに、移動販売車のために電源を整備している町がある。桜通線の整備にあたっては人が憩う歩道や、移動販売車が販売できるようにするとか、工夫すれば賑わいは作れるのではないか。

関戸委員長：道路を利用するのが具体的かつ現実的と思う。空き店舗の補助金が上手くいかなかったのは、場所の問題だったのだろうか。

宮川委員：人の滞留をどう作り出していくかが大切。堀委員の例と一緒に、博多の屋台も、公園周辺に水道と電源が整備されている。時間をどうデザインするかで、昼間の公園と夜の公園で二面的な利用をしている。また、博多どんたくのメインの神社と博多駅の間に人通りを人為的につくるため、ショッピングモールを建設し、屋台との関係を上手に活かしてきた。近くでは犬山の猿田彦神社が、本来は家の守り神のはずが、絵馬をハート形にして、若い人に人気が出た。既存の物事だけで考えていると何も膨らんでいけないので、人為的に人を呼び込む方法を考えなくてはいけない。山内一豊を利用した話題づくりも可能だと思う。人を呼び込むための知恵を出し合うことが大事。

堀委員：飲食に関して言えば、女性の視点が重要。利用者は圧倒的に女性が占める。店舗のおしゃれ度、味、何が駄目だったのか、女性の意見を聞く場が必要。

関戸委員長：視察の提案が、自動運転の事例ばかりなので、駅東の賑わいづくりの参考になりそうな事例もないか。

水野委員：トヨタ自動車が、まちをゼロからつくっているところが静岡県にある。

関戸委員長：駅東の賑わいづくりとずれていないか。次回までに考えておいてほしい。

【自動運転】

水野委員：資料をまとめたので配付する。

片岡委員：愛知県の事例を配付する。(株)NTTドコモのHPから抜粋した。

常滑市、西尾市、長久手市で実証実験を行うようだ。常滑市は今月、実施中。

駅東の件で有松と併せて視察するといいかもしれない。

水野委員：実証実験を実施している期間中に行ったほうがいいと思う。

片岡委員：実際に乗るのであればそのとおり。常滑市は10月18日まで。昨年、名鉄バスと群馬大学が、名鉄尾張旭駅から名古屋医科大学病院間で公道を走行しての実証実験を行ったが、実験後は走行していない。

関戸委員長：実証実験後に検討した内容を聞けるといいと思うが。また実験に至ったプロセスについて常滑市の話も聞きたい。

片岡委員：自治体に、なぜ自動運転を取り入れようと検討したか知りたい。

水野委員：実現までいっているのは茨城県境町。

堀委員：先方の都合もあるので、日程を先に決めてもらい、行ける人が行くことにしてはどうか。

関戸委員長：常滑市と茨城県境町が候補。11月中で先方の都合の良い日を聞いてもらい、その中で一番多くの委員が行ける日とする。

水野委員：茨城県境町は実費かオンライン。

(2) その他

次回、商工農政課から空き店舗の補助金の経緯や結果を聞く。また、公共交通の件も担当課から話を聞く。

10 その他

特になし